

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成28年7月14日(2016.7.14)

【公開番号】特開2016-47333(P2016-47333A)

【公開日】平成28年4月7日(2016.4.7)

【年通号数】公開・登録公報2016-021

【出願番号】特願2015-235853(P2015-235853)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

【手続補正書】

【提出日】平成28年5月24日(2016.5.24)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御する遊技機であって、
可変表示に関する情報を保留情報として記憶可能な保留記憶手段と、
保留情報に基づいて可変表示を所定の状態とするか否かを決定する決定手段と、
前記決定手段の決定結果に基づいて、可変表示を実行する可変表示実行手段と、
可変表示が前記所定の状態となるか否かを前記決定手段による決定前に判定する判定手
段と、

前記判定手段による判定に基づいて、複数回の可変表示に亘って、予告演出を実行する
予告演出実行手段と、を備え、

前記予告演出実行手段は、前記複数回の可変表示において、第 1 予告演出を実行するパ
 ターンと、当該第 1 予告演出よりも前記所定の状態となる割合が高い第 2 予告演出を実行
 するパターンと、前記第 1 予告演出を実行した後に前記第 2 予告演出を実行するパターン
 と、のいずれかのパターンで前記予告演出を実行可能であるとともに、演出により期待度
 が異なるように前記予告演出を実行し、

可変表示が開始されてから表示結果を導出表示する以前に仮停止させた後に可変表示を
再開する再可変表示が所定回数以上実行された場合には、特定のリーチ演出が実行される
ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 5

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 0 5】

遊技機の興趣を向上させることが望まれる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 0 6

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

この発明は、上記実状に鑑みてなされたものであり、興趣を向上させた遊技機を提供することを目的とする。

【手続補正4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0007

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0007】

上記目的を達成するため、本発明の遊技機は、

可変表示を行い、遊技者にとって有利な有利状態に制御する遊技機であって、

可変表示に関する情報を保留情報として記憶可能な保留記憶手段と、

保留情報に基づいて可変表示を所定の状態とするか否かを決定する決定手段と、

前記決定手段の決定結果に基づいて、可変表示を実行する可変表示実行手段と、

可変表示が前記所定の状態となるか否かを前記決定手段による決定前に判定する判定手段と、

前記判定手段による判定に基づいて、複数回の可変表示に亘って、予告演出を実行する予告演出実行手段と、を備え、

前記予告演出実行手段は、前記複数回の可変表示において、第1予告演出を実行するパターンと、当該第1予告演出よりも前記所定の状態となる割合が高い第2予告演出を実行するパターンと、前記第1予告演出を実行した後に前記第2予告演出を実行するパターンと、のいずれかのパターンで前記予告演出を実行可能であるとともに、演出により期待度が異なるように前記予告演出を実行し、

可変表示が開始されてから表示結果を導出表示する以前に仮停止させた後に可変表示を再開する再可変表示が所定回数以上実行された場合には、特定のリーチ演出が実行される。

本発明の他の遊技機は、

(1) 各々を識別可能な複数種類の識別情報の可変表示を行い表示結果を導出表示する可変表示手段(例えば第1、第2特別図柄表示装置4A、4Bや画像表示装置5など)に表示結果として予め定められた特定表示結果(例えば大当り図柄となる確定特別図柄や大当り組合せとなる確定飾り図柄など)が導出表示されたときに、遊技者にとって有利な特定遊技状態(例えば大当り遊技状態など)に制御する遊技機(例えばパチンコ遊技機1など)であって、未だ開始されていない識別情報の可変表示について、保留情報として記憶可能な保留記憶手段(例えば第1、第2特図保留記憶部151A、151Bなど)と、識別情報の可変表示を開始するときに、保留情報に基づいて識別情報の可変表示を所定の状態とするか否かを決定する開始時決定手段(例えばステップS240の処理を実行するCPU103など)と、前記開始時決定手段の決定結果に基づいて、識別情報の可変表示を実行する可変表示実行手段(例えばステップS240の処理を実行した後、ステップS112、S113の処理を実行するCPU103など)と、識別情報の可変表示が前記所定の状態となるか否かを前記開始時決定手段による決定前に判定する開始前判定手段(例えばステップS212の入賞時乱数値判定処理を実行するCPU103など)と、前記開始前判定手段による判定に基づいて、前記保留記憶手段に記憶されている保留情報に基づく識別情報の可変表示が実行される前の複数回の識別情報の可変表示に亘って、連続した予告演出を実行する予告演出実行手段(例えばステップS710の処理に基づきステップS603の処理を実行する演出制御用CPU120など)と、通常可変表示状態よりも識別情報の可変表示の開始から終了までの平均可変表示時間が短縮される短縮可変表示状態(例えば時短状態、確変状態など)に制御可能な状態制御手段(例えば大当り終了処理において時短フラグをオン、オフするCPU103など)と、を備え、前記予告演出実行手段は、前記複数回の識別情報の可変表示において、第1予告演出を実行するパターン(例えば先読み予告パターンSY P1-1やSY P1-2など)と、当該第1予告演出よりも前記

所定の状態となる割合が高い第2予告演出を実行するパターン（例えば先読み予告パターンSY P2-1など）と、前記第1予告演出を実行した後に前記第2予告演出を実行するパターン（例えば先読み予告パターンSY P3-1など）と、のいずれかのパターンで前記予告演出を実行可能であるとともに、演出により期待度が異なるように前記予告演出を実行し、前記可変表示実行手段は、前記通常可変表示状態であるときには第1時間に亘って、導出表示された表示結果を表示させた後に次の識別情報の可変表示を開始可能とする一方、前記短縮可変表示状態であるときには前記第1時間よりも短い第2時間に亘って、導出表示された表示結果を表示させた後に次の識別情報の可変表示を開始可能とする（例えばステップS294E～S294Hの処理を実行するCPU103など）ことを特徴とする。

このような構成によれば、短縮可変表示状態における識別情報の可変表示効率を高めることができる。